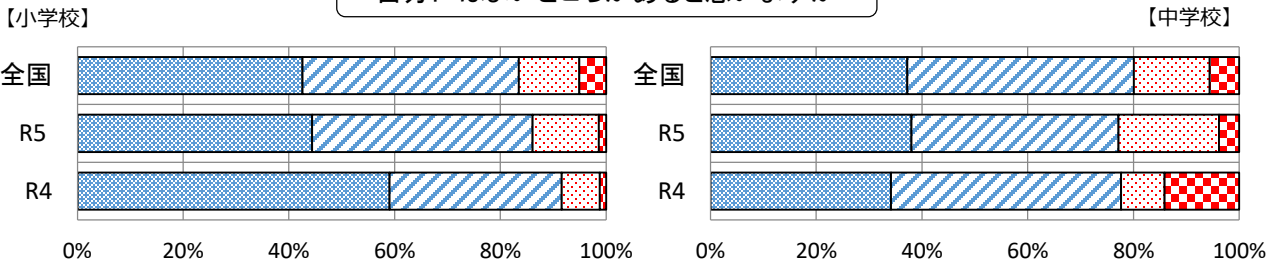


「質問紙調査結果」

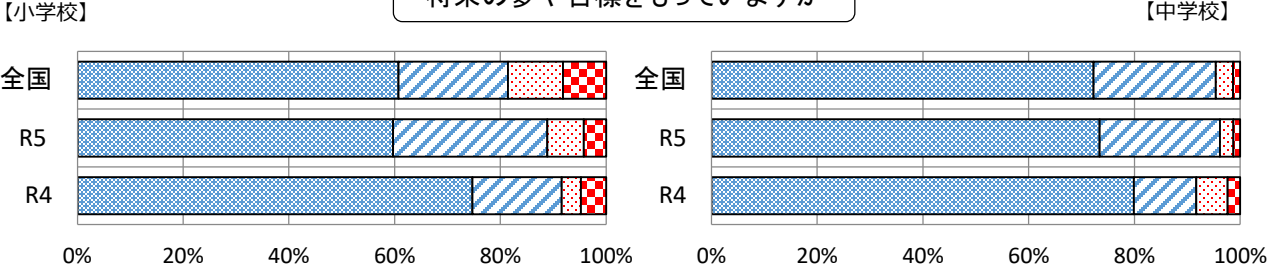
【自己有用感等に関する質問について】



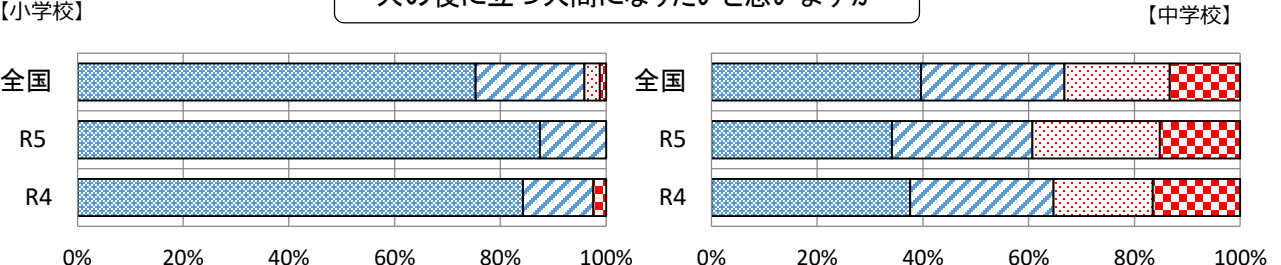
自分にはよいところがあると思いますか



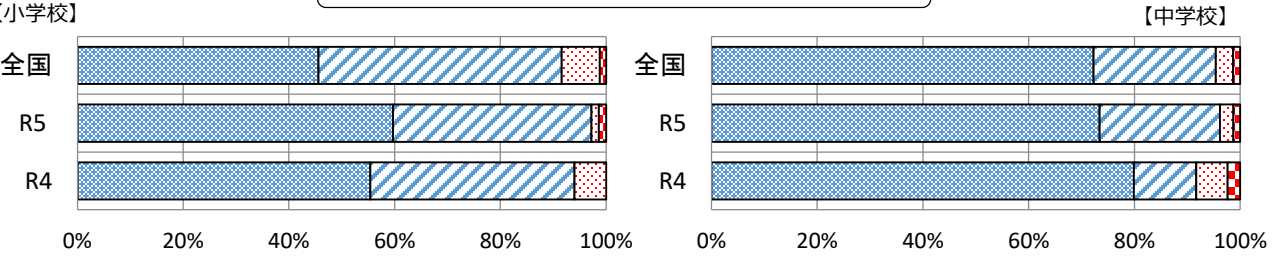
将来の夢や目標をもっていますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



人が困っているときは、進んで助けていますか



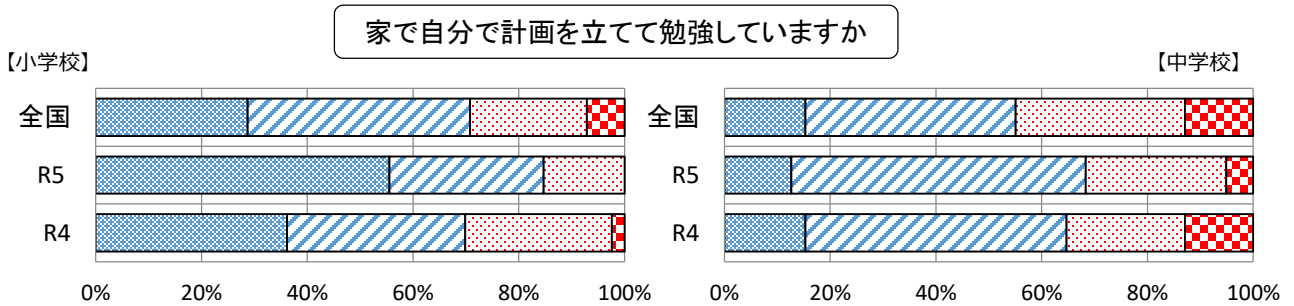
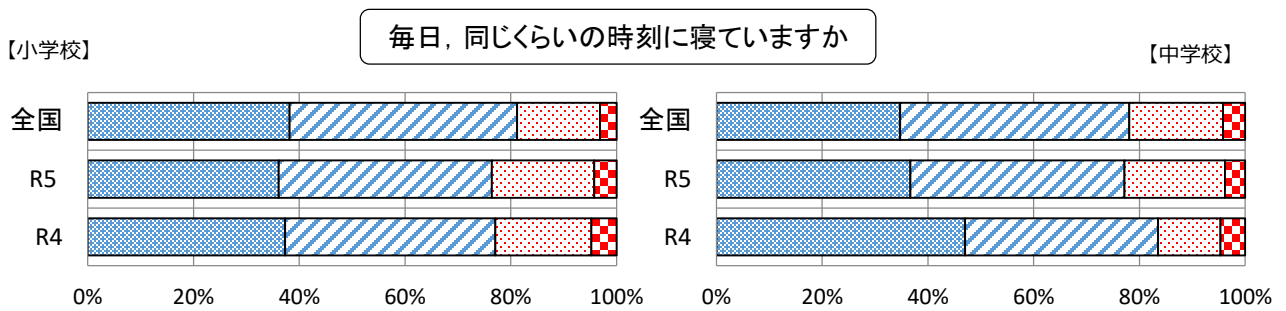
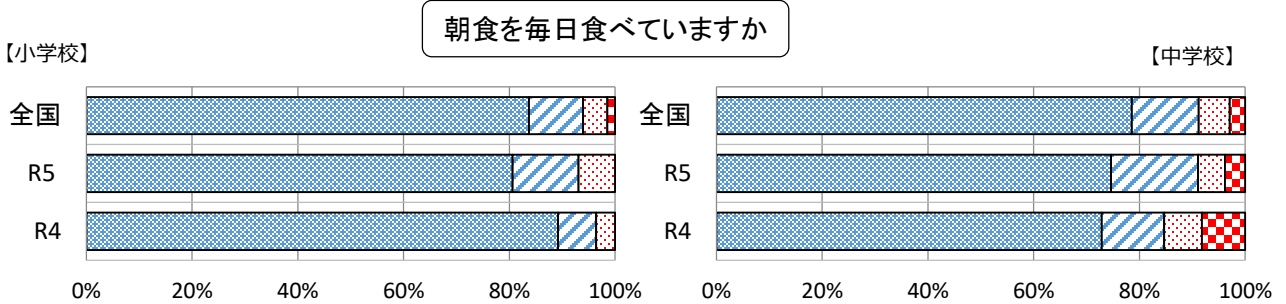
『自分にはよいところがあると思いますか』という質問において、小学校では全国値を上回っているが、否定的な回答が昨年度より増加した。中学校では肯定的回答が全国値を下回る結果となっており、他の項目においても概ね同じことが言える。まずは、周囲の大人全員が子どもたちの努力の過程や成長したことを認め、褒めることが大切である。「班活動」のような支え合いができる学級づくりのしかけをしていくことが改善策の一つである。

『人の役に立ちたいと思いますか』という質問では、小学校では肯定的な回答が100%と喜ばしい結果となっており、今後は、より一層、実践や体験を重視した活動を行うことで実践力を養ったり、自己肯定感を高める取り組みを行ったりしていくことが大切になってくる。

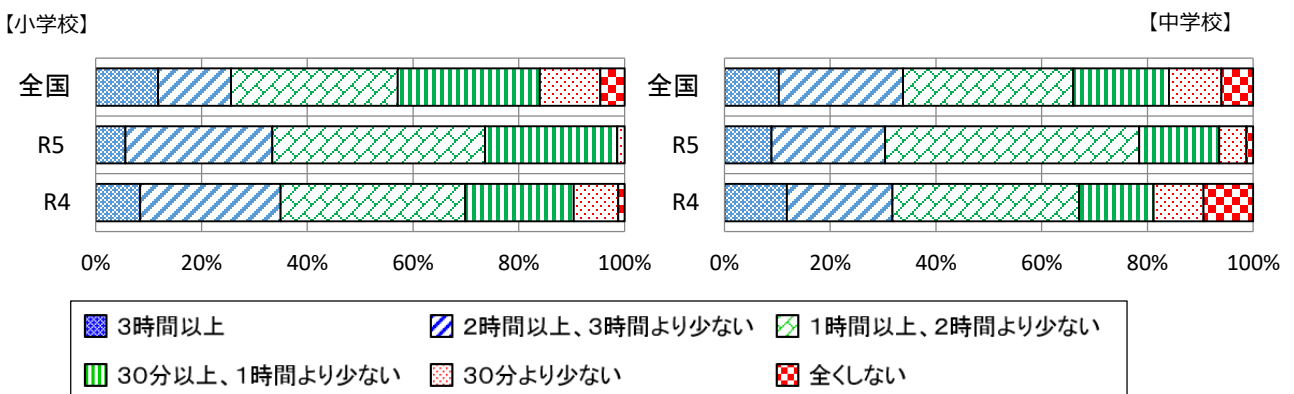
※ 調査項目は毎年度文部科学省において決定されます。
新しく入った項目、毎年調査する項目、数年おきに調査する項目があります。

「質問紙調査結果」

【基本的な生活習慣・学習習慣等に関する質問について】



学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



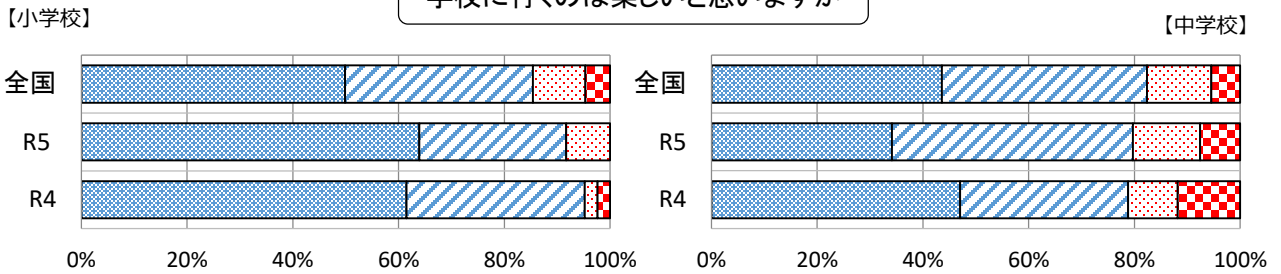
『学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)』の質問では、学習時間が少なかった子どもたちが減少し、一定の改善傾向が見られる。今後も、家庭学習における学習方法の見直しを含め、家庭と学校が協力して、より一層進めていく必要がある。

「質問紙調査結果」

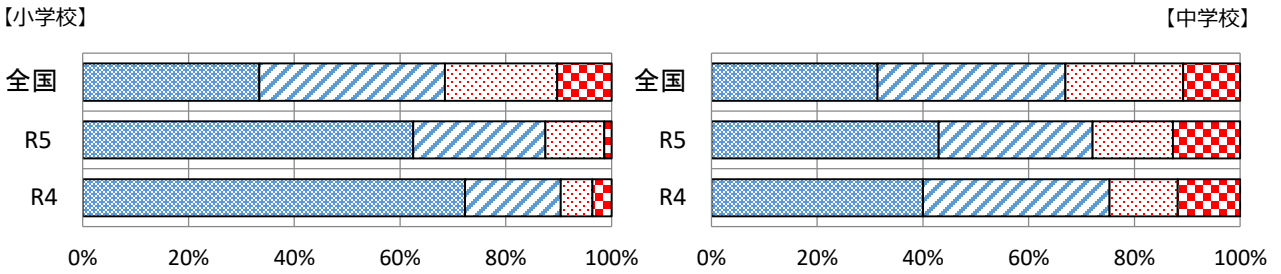
【学校生活に関する質問について】



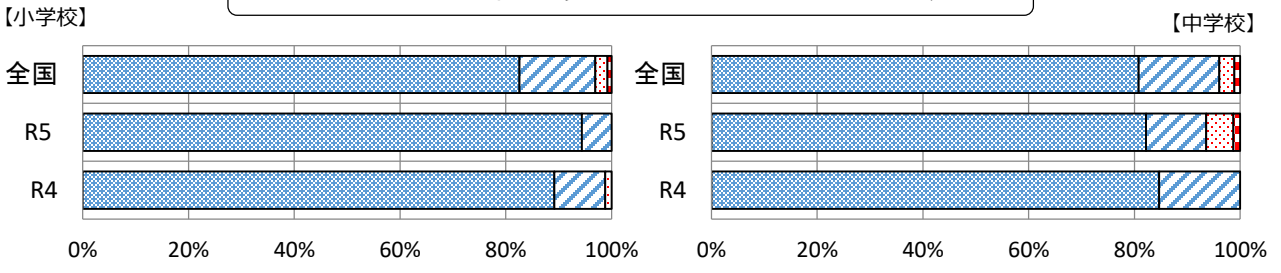
学校に行くのは楽しいと思いますか



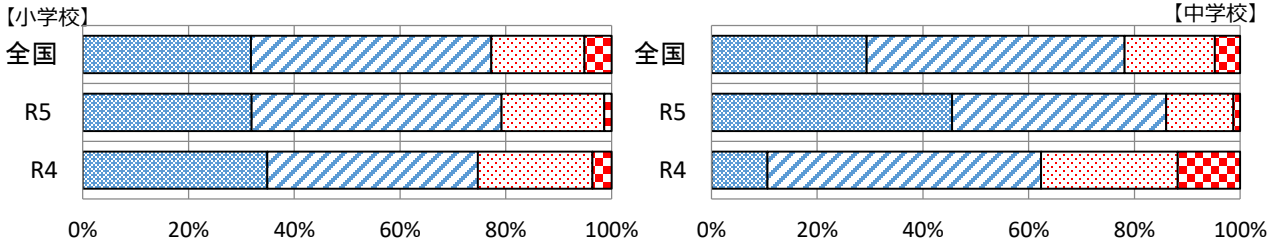
困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか



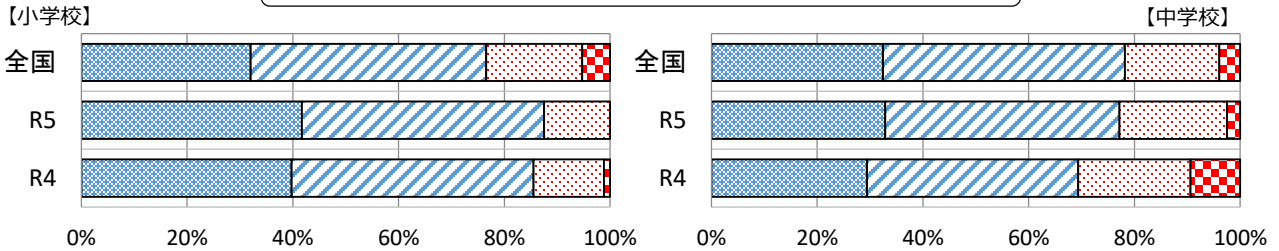
『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか』という質問では、小学校は否定的な回答がなく、いじめを許さないという雰囲気が醸成されている。一方で、中学校は否定的な回答が6%もあり、学級経営の方法も含め、学校組織として早急に対応し必要がある。『あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか』という質問では、小中学校ともに改善傾向が見られる。特に、中学校の改善が顕著であり、「班活動」の取り組みが効果を表していると言える。

「質問紙調査結果」

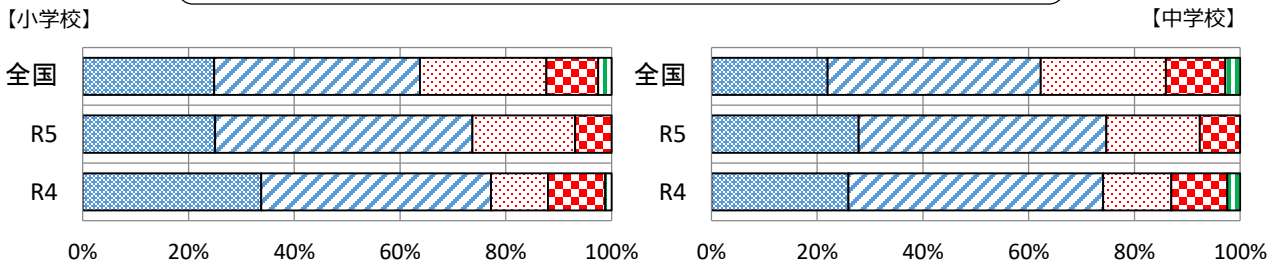
【学習に関する質問について】



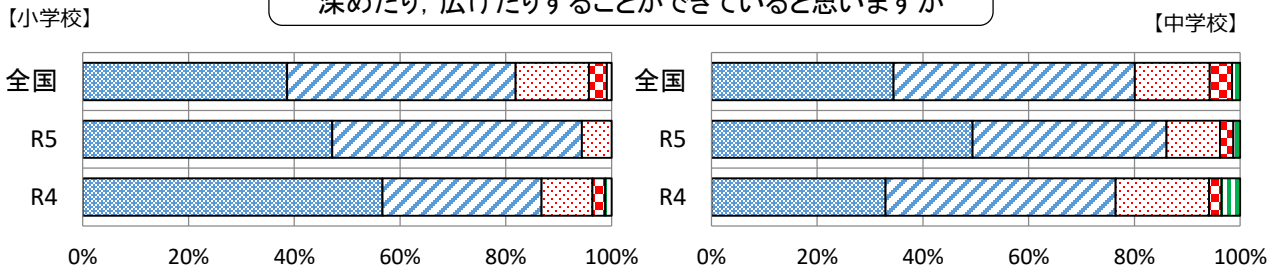
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



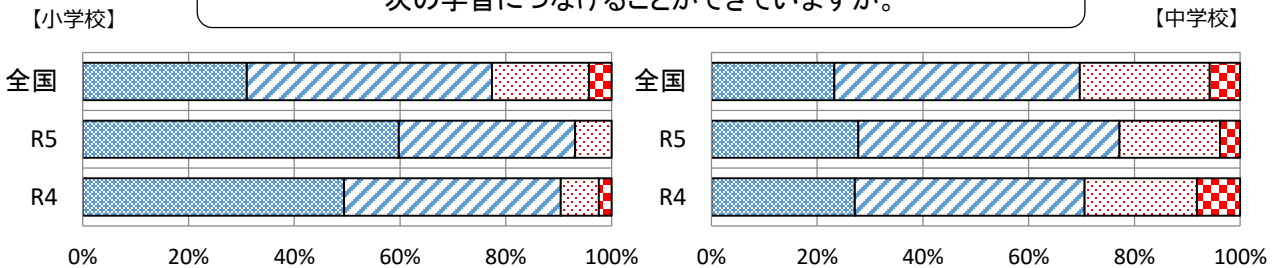
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



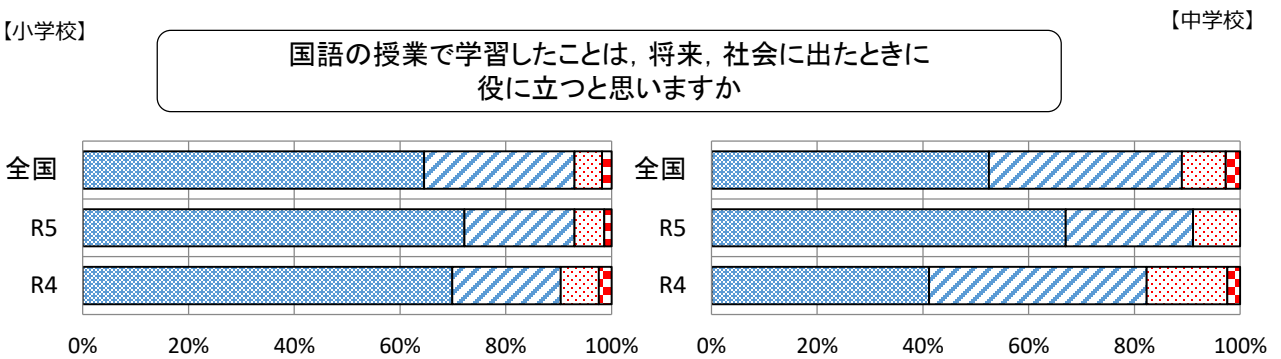
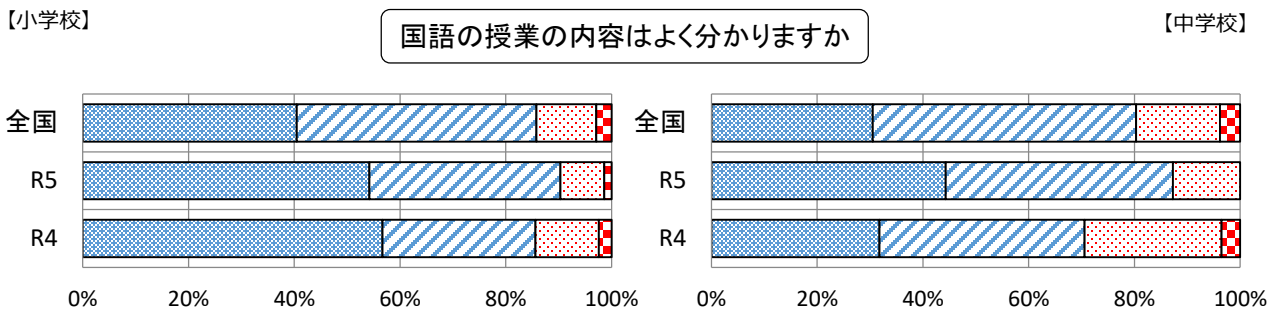
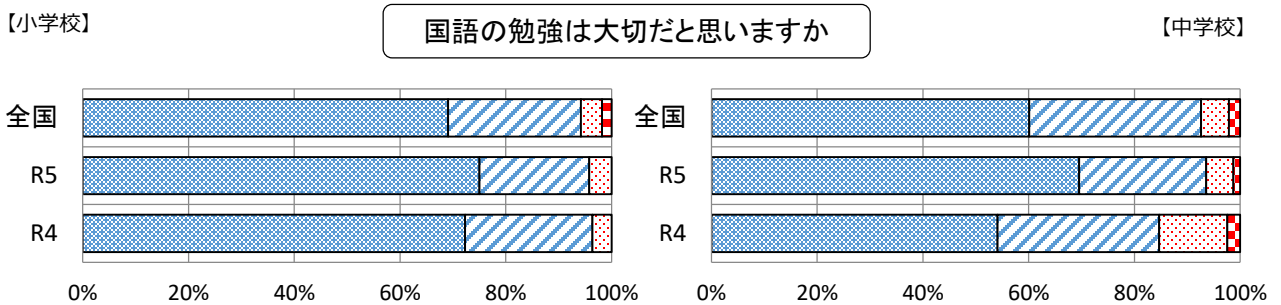
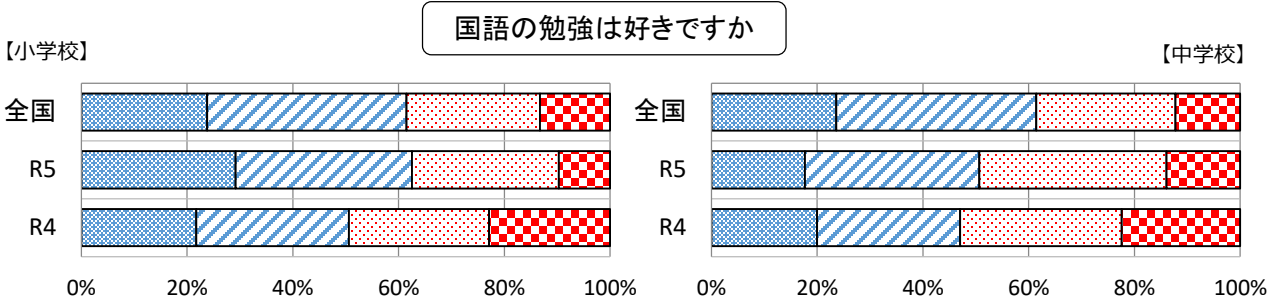
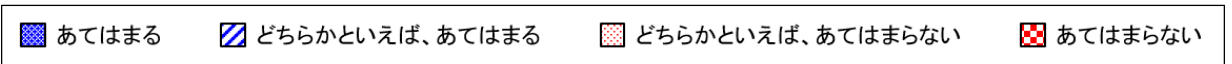
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。



『学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。』という質問では、小中学校とも肯定的な回答が増加傾向にある。「ふり返し活動」の取り組みの成果が表れていると言える。また、『学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか』という質問では、小中学校とも肯定的な回答が増加傾向にあり、効果的に話し合う場を設定することができていると言える。

「質問紙調査結果」

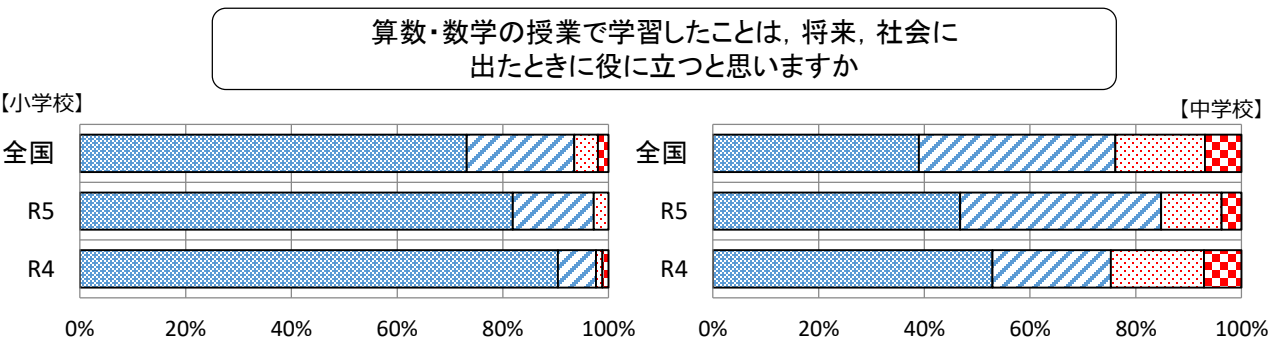
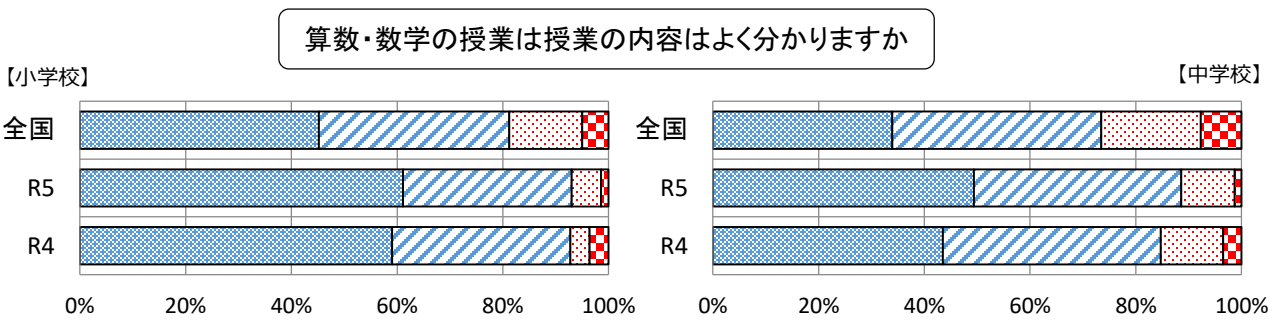
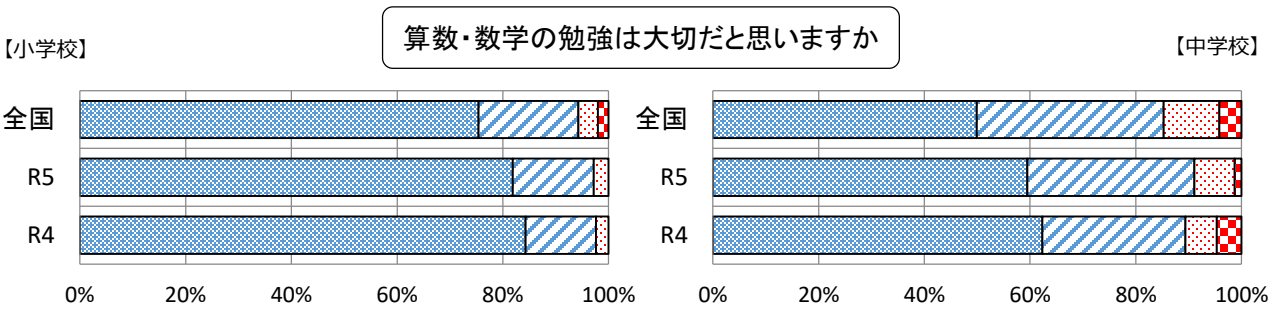
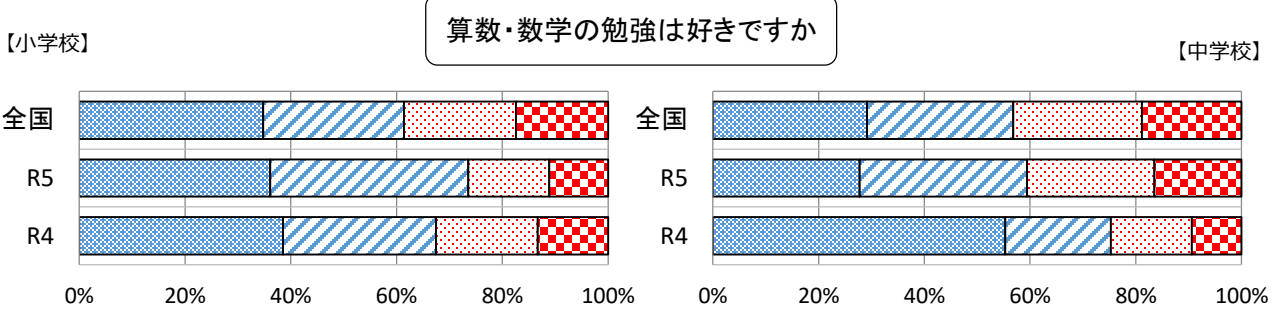
【学習に関する質問について(国語)】



『国語の勉強は好きですか』の質問では、改善傾向が見られるものの、小中学校ともに全国値を下回る結果となり、国語に対する苦手意識がある子どもたちが多いことが分かる。その他の項目においても、改善傾向が見られる。この積み重ねが、国語の勉強が好きなお子どもの増加へと繋がっていくため、今後も引き続き取り組んでいくことが大切である。

「質問紙調査結果」

【学習に関する質問について(算数・数学)】



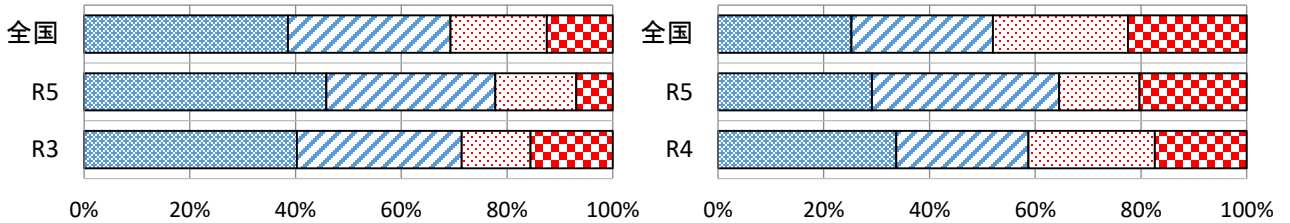
『算数・数学の授業は授業の内容はよく分かりますか』という質問では、小中学校とも肯定的回答が増加傾向にあり、問題解決型学習や学び合い学習の成果といえる。『算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか』や『算数・数学の勉強は大切だと思いますか』という質問においても、肯定的な回答が増加傾向にあることから目的意識をもって学習に取り組んでいることがわかる。

「質問紙調査結果」

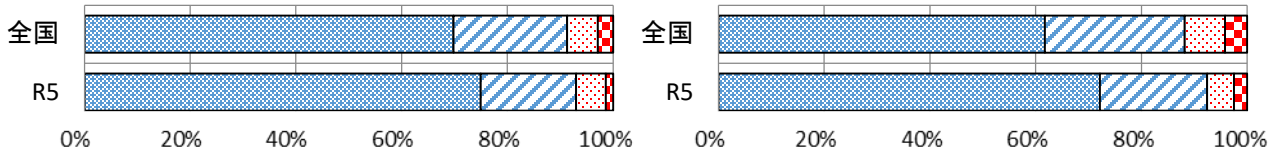
【学習に関する質問について(外国語・英語)】

あてはまる
 どちらかといえば、あてはまる
 どちらかといえば、あてはまらない
 あてはまらない

【小学校】
英語の勉強は好きですか
【中学校】



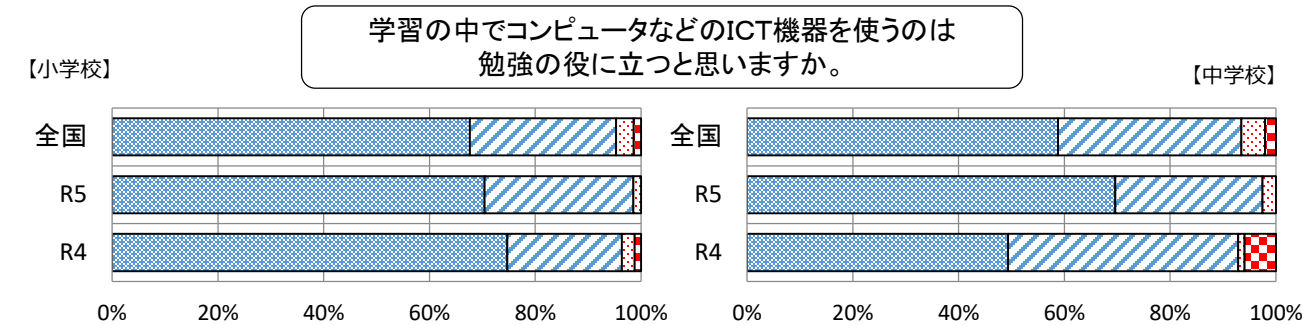
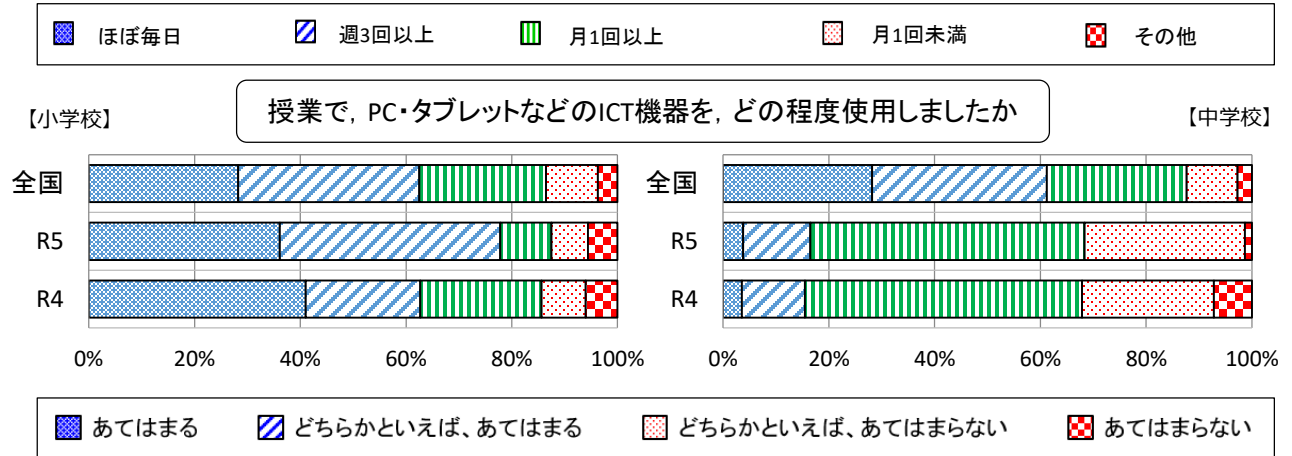
【小学校】
英語の勉強は大切だと思いますか
【中学校】



『英語の勉強は大切だと思いますか』の質問では、肯定的回答の割合が全国値より高く、語学習得の必要性を感じながら学習に取り組むことができている。また、『英語の勉強は好きですか』の質問では、令和3年度実施と比較して、肯定的な割合が増加している。今後も引き続き、英語を使いながらコミュニケーションを図る楽しさを味わえる授業づくりを行っていくことが重要がある。

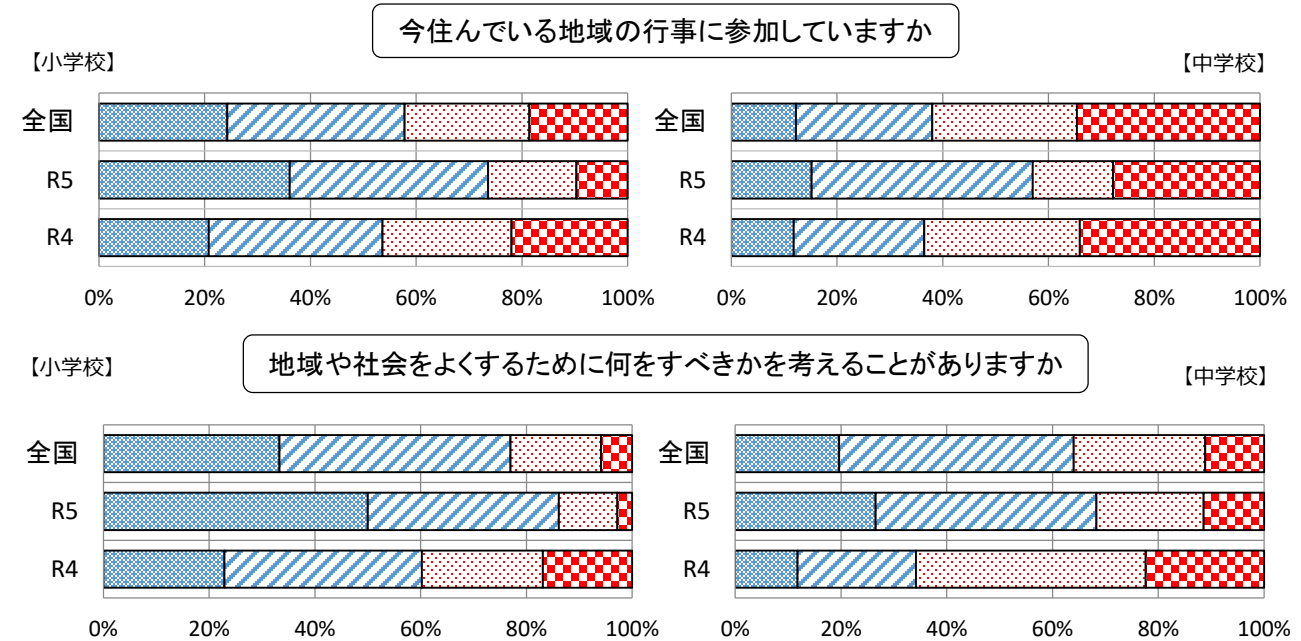
「質問紙調査結果」

【ICTに関する質問について】



令和3年度より小中学校に1人1台タブレットが配備されが、『PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか』の質問では、中学校での活用実績が少ないことが課題としてあげられる。ICT機器を使うのは勉強の役に立つかという質問について肯定的な回答が多いことから、授業内での更なる活用に取り組んでいく必要がある。

【地域に関する質問について】



『今住んでいる地域の行事に参加していますか』という質問では、小中学校ともに肯定的回答が全国平均値を上回っている。地域行事の復活が影響していると考えられる。『地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか』の質問での、中学校の肯定的回答の高さはSDGsの取り組みが好影響を与えているといえる。